

産業・土木・
鉄道遺産を
通して学ぶ
地域づくり



海外との交流の歴史から生まれた 長崎の世界遺産

「明治日本の産業革命遺産」

(一社)長崎国際観光コンベンション協会 事業本部 部長 古賀 典明



長崎から始まった 日本の産業革命



出島における外国人との共存や貿易、異文化
交流の歴史など、長崎は日本でも他に類を
見ない独特の歴史を持っているまちである。
そして、現在の日本における様々なものは、
海外からまず長崎に入り、そこから江戸や大
坂、そして日本全国に広がっていった。食べ
物や衣服、生活用品に加えて、文化や慣習、
医学やモノづくりの技術なども海外から長崎
に入り、それが人伝えに広がっていった。
世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構
成遺産は、まさに長崎における外国商人との
交易の歴史の中から生まれたものであり、他
のまちではなく長崎だからこそ花開いたもの
だと言えよう。

開園50周年のグラバー園



スコットランドからやってきた商人トーマ
ス・ブレイク・グラバーは、彼との交流なし
には現在の我々の生活がないほどたくさん
のものをもたらした。そんなグラバーの日本に



グラバー園からの三菱重工長崎造船所の眺め

おける功績や歴史を知ることができるのが
「グラバー園」である。路面電車電停「大浦天
主堂」で降りて、たくさんのお土産物店が軒を
連ねるグラバー坂を上ったところにある。ま
た、「石橋」電停で降りて、日本初の斜行エレ
ベーターに乗って第2ゲートから入るとい
うアクセス方法もおすすめだ。グラバー園は今
年開園50周年を迎え、ハローキティとのコラ
ボなど新しい展開も楽しみである。
グラバー園は坂の上に位置しているため、園
内の散策の際に、長崎港や外国人が住んでいた
居留地や対岸に位置する三菱重工(株)長
崎造船所の眺めを楽し
むこともで
きる。世界遺
産の構成資
産である「旧
グラバー住
宅」から見え
る対岸の景
色は、まさに
グラバーが
見ていた景色
で、そこから

は同じく構成資産の「第三船渠」(せんきょ)「ジャイアン
ト・カンチレバークレーン」を見ることができ
る。これらはいずれも(株)三菱重工長崎造
船所内にあるため一般公開されておらず、グ
ラバー園から眺めるのがおすすめです。
▼グラバー園
営業時間…8:00～18:00(夜間開園あり)
URL: <https://glover-garden.jp/guide/>



軍艦島を巡るクルーズでの リアル体験とデジタルミュー ジウムでのバーチャル体験



世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の長
崎における構成資産の1つが「端島(軍艦島)
炭坑」である。軍艦のような外観から軍艦島
と呼ばれる端島は、当時黒いダイヤモンドと
呼ばれた石炭を採掘する島として日本の産業
革命に大きく貢献した。そんな端島(軍艦島)
を学ぶ方法として、現在5社のクルーズ会社
による長崎港などからの軍艦島上陸・周遊ク
ルーズ(所要時間1:5～3時間、20～225
名対応)がある。現在では廃墟となった端島
(軍艦島)だが、日本の産業革命を牽引した時
代の建物が残った迫力ある姿を、ぜひその目
で見たい。

▼軍艦島上陸・周遊クルーズ
URL: https://play.nagasaki-visit.or.jp/play_genre/cruise

visit.or.jp/play_genre/
cruise





立体シアター



元島民ガイドによる解説



穿孔機操作体験

クルーズ5社のうちの1つ、軍艦島コンシェルジュ（株）ユニバーサルワークーズは、ミュージアムでのバーチャル体験も展開している。軍艦島クルーズは波の影響を受け、上陸できないことやクルーズ自体が運航できないこともあるため、クルーズが不催行の際の代案としても、「軍艦島デジタルミュージアム」がおすすだ。ここではVRやプロジェクションマッピングなどの技術を活用して、軍艦島の過去の様子や立ち入ることができない場所の様子を楽しむことができる。また、元島民のガイドによる案内や興味深い展示など、軍艦島クルーズでリアル体験ができない方も楽しめる展示内容となっている。最近では5面のデジタルパネルを使ったアトラクション「立体シアター」が登場して、まるで軍艦島にいるかのような体験をすることができる。なお、団体での訪問の場合は、事前の連絡が必要となる。

▼軍艦島デジタルミュージアム

営業時間…9:00～17:00（不定休）

入場料金…中学生・高校生1,300円

URL: <https://www.gunkanjima-museum.jp>

池島炭鉱体験

世界遺産には登録されていないが、長崎市にはもう1つ石炭採掘の歴史を学べる場所「池島」がある。2001年に閉山した九州最後の炭鉱の島で、現在でも約100人の島民が暮らしている。端島炭坑（軍艦島）のように当時を感じさせるアパートの建物や石炭採掘に使われた機械などが今でも残っているが、この池島が端島炭坑（軍艦島）と異なるのは、実際の坑内に入れることである。観光トロッコでレールを進み、元炭鉱マンのガイドによる案内で、炭鉱機器の見学や模擬装置の操作体験など、特別な空間で石炭の歴史を学ぶことができる。また、オプション付きコースでは坑内見学に加えて池島の島内を散策することもできる。日本の成長を支えた長崎の小さなまちを感じてみてはいかがだろうか。



▼池島炭鉱体験

時間・料金…午前コース11:00～13:00

2,720円、午後コース13:15～

15:15 2,720円、午後+オ

プションコース13:15～16:45

3,170円

URL: [https://saruku-nagasaki-](https://saruku-nagasaki-visit.or.jp/ikeshima)

[visit.or.jp/ikeshima](https://saruku-nagasaki-visit.or.jp/ikeshima)



長崎ならではの
探究的な歴史学習

長崎の修学旅行といえば「平和学習」というイメージをお持ちの方が多くと思うが、キリシタン弾圧も原子爆弾投下による被爆も、長崎における重層的な歴史の一部である。海外との交流の歴史から始まり、異国の人々や異文化との共存を経て、海外から入ってきたいろいろなものが現在につながり、私たちの日常に根付いている。その入口となったまち長崎で、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」という産業の視点で歴史を学んでみてはいかがだろうか。現在多くの学校が修学旅行で実現しようと考えている「探究的な学習」においても、豊富なテーマや切り口がある長崎はうってつけの場所である。

【問い合わせ先】

（一社）長崎国際観光コンベンション協会

事業本部 誘客受入チーム

長崎県長崎市出島町1-1 出島ワーフ2階

TEL: 095-823-7423